

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益財団法人 梅若会
公演団体名	公益財団法人 梅若会

内容
1. 事前ワークショップ「能楽鑑賞のためのみちびき」にて行います。 2. 体験の形態について （1）お話 （2）能の動きを体験しよう（生徒代表20名まで） （3）能の楽器に触れてみよう（生徒代表 小鼓3名、太鼓3名） （4）謡を謡ってみよう（全校生徒） （5）能面を見てみよう （6）仕舞「殺生石」実演 （7）質問コーナー等

タイムスケジュール（標準）
90分前後予定

派遣者数
主指導者1名 補佐3名

学校における事前指導
特にありません。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	公益財団法人 梅若会
公演団体名	公益財団法人 梅若会

演目
1. ごあいさつとお話「狂言について」 2. 狂言「柿山伏」 3. お話「能について」 4. 能「殺生石」

派遣者数
出演者：21名 スタッフ：1名 合計：22名

タイムスケジュール（標準）
1. 到着～仕込み：10:30-12:30 2. 本公演：13:00-14:40（内休憩10分） 3. 撤去：15:00-16:30 4. 退出：16:45

実施校への協力依頼人員
司会の教員の方1名

演目解説

1. ごあいさつとお話「狂言について」

冒頭に能楽師がごあいさつと能狂言の全体的な見方をお話します。一見堅苦しいイメージがある古典芸能に対して、各々がどのように接し、見たら良いか、感じたら良いかなどお話します。続いて狂言についてお話します。このあと演じる狂言のあらすじについても解説しますが、最後の結末は伏せます。

2. 演目のあらすじ

(1) 狂言「柿山伏」

大和の国（今の奈良県）大峰山・葛城山での修行を終わり、本国の出羽の国（今の山形県）羽黒山へ帰る旅の途中の山伏、修行のおかげで、空を飛ぶ鳥をも祈り落とす程の力を持つようになったと自慢しています。

さて、今朝早く出発したので空腹になった山伏は、柿の実が実っているのを見つけ、何とか落とそうと試みますが、うまくいきません。そこで柿の木に登って実を食べていると、見回りにやって来た柿の木の持ち主に見つかってしまいました。怒った柿主はわざと、「あそこにいるのは鳥だ、猿だ、鳶だ」と言っていじめます。山伏は懸命にそれらの物真似をして何とか取り繕おうとします。しかし最後に、「鳶ならば羽を伸ばして鳴くものだ。もうそろそろ飛び立つ頃だ。」と言われ、思わず高い木の梢から飛んでしまいます。

3. お話「能について」

能楽師が本日の演目解説を致します。当日配布予定のパンフレットを元にあらすじ、曲目に関する親しみやすい知識も含め、敷居が高くないわかりやすい解説をします。

4. 能「殺生石」

奥州の玄翁和尚（ワキ）が修業の途中、那須野の原の大石に近づくと、里女（シテ）にその大石は触れれば鳥獣も死ぬと声をかけられます。玄翁が話を聞くと里女はこの石は国を滅ぼそうとした野干の精（妖狐）だと話します。その野干は玉藻の前に化け鳥羽法皇に近づきましたが、野干と見破られて殺され、この石となった今も殺生を続けていると話し、実は自分がこの石魂と明かし石の中に消えます。（中入）玄翁が仏事を営むと石が割れ中から妖狐（シテ）が現れ、三国（インド・中国・日本）の王朝に危害を加えた事を語ります。その後この国の武士達に討たれ石魂となっても悪事を続けていますが、妖狐は玄翁の御法により悪事を行わない事を約束し姿を消します。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

前ワークショップ「能楽鑑賞のためのみちびき」にて行います。

○体験の形態について

(1) お話 10分

- ・能の歴史についておよび狂言「柿山伏」、能「殺生石」について解説します。

(2) 能の動きを体験しよう（生徒代表20名まで）：30分

- ・能の構え、摺り足等といった代表的な動きを学びます。
- ・能における独特な動きの感情表現を体験します。
- ・能面をつけて歩いてみます。（生徒代表20名の中から6名のみ）

- (3) 能の楽器に触れてみよう (生徒代表 小鼓3名、太鼓3名) : 10分
- ・能の楽器 (小鼓、太鼓) に触れてみます。道具に対して心をこめて扱うなどを学びます。
- (4) 謡を謡ってみよう (全校生徒) : 10分
- ・能「殺生石」の一部分を全員で合唱します。プリントを元に謡曲の独特な節使いなどをレクチャーし、皆で謡います。
- (5) 能面を見てみよう : 15分
- ・本物の能面を間近に見てみます。
- (6) 仕舞「殺生石」実演 : 5分
- (7) 質問コーナー等 : 10分
- ・皆様からの質問にお答えします。
- (8) その他 : 参加人数、所要時間等学校側の要望に可能な限り対応する体制です。

児童生徒とのふれあい

ワークショップ、本公演ともに堅苦しくない質疑応答の時間を設けています。特にワークショップについては終了後、会場出口付近に能面を置き、ひとりひとりが間近で見ることができるよう置き、説明できる体制をとる予定です。

